

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500415		
法人名	医療法人 安倍病院		
事業所名	グループホーム みどりの里		
所在地	宮若市長井鶴230番地		
自己評価作成日	平成23年7月13日	評価結果確定日	平成23年8月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成23年7月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>病院が母体の為、病院との連携や入居者の状態を毎日主治医に報告し、いつでも受診できる体制が整っており、生活を安心して送れる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2年毎に運営理念を見直し、現在は介護職員として質の高いサービスの提供、入居者の意思を尊重したその人らしい生活空間作り、家族や地域に開かれた場を目指すことを理念に掲げている。担当職員が3ヶ月毎のモニタリングの結果を「ご様子伺い」として家族に送付したり、2ヶ月毎に家族会を開催し、意向や意見を伺う機会を設けている。天井が高く明るい共用空間に設置されたソファでは仲の良い入居者同士で寛いだり、3名の職員が全盲の入居者の思いを取囲んで聴いている様子から、理念が今後もより具現化することが伺える。地域同業者協議会GHみやわかへの参加で、地域密着型サービスとして切磋琢磨することが期待できるホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **Aユニット/みどりの里**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に、運営理念の唱和を行っている。	職員、入居者等の目にふれやすい各ユニットの共用空間に理念を掲示している。2年毎に理念が変わっているが、カンファレンスで理念を見直し、入居者の個別性を重視したケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いつでも立ち寄ってもらえる環境作りしており、玄関を開放しており、ご近所の方にも挨拶や御声掛けをしている。	地域の運動会や地域社協主催のふる里まつりに参加している。ボランティアが来所したり、散歩の折に近隣と挨拶を交わしている。	祇園祭りの神輿の巡行や盆踊りなど季節の行事等をホームの玄関で迎えることで、さらなる地元との交流を期待します。入居者の回想法にもなると思われます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のグループホームと協力して、市で行われる祭りなどに参加をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回行っており、会議の内容を掲示している。	2ヶ月毎に地域代表、市担当者、家族代表等で開催され、ホームの行事や運営について報告されている。遠方に居住する家族も多く、家族の参加が難しいこともあるが、参加した家族からは職員に謝辞が述べられている。	参加者の守秘義務や個人情報の取り扱いを明記した運営推進会議実施要領を整備することで、さらなる会議の活用を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市の職員の方や地域の方・入居者の御家族に参加して頂いている。	入居状況を報告したり、参加している地域同業者協議会のGHみやわか主催の研修の講師としてお願いしたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵を閉めたりなどの拘束は行っていない。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、GHみやわか主催の研修会を予定している。いままで、外出傾向のある入居者はいない。隣接する医療機関からの入居で、医療機関でベットの柵を活用していた入居者は、起き上がりを容易にするために、現在も柵を活用している入居者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は起きていないが、防止策としてスタッフのストレスを溜まらないように、スタッフ間で話し合いや勉強会などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、職員の理解を深める為資料などを回覧している。	現在まで制度等の活用はない。資料を整備し、事務所前に掲示している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、家族が疑問や不安に思うことは、十分に説明・理解していただき、納得された上でサインを頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	クレーム・苦情などがあった場合は、カンファレンスを開き、スタッフ間で話し合いを行っている。	家族会は開所時は毎月開催していたが、現在は2ヶ月毎に開催している。参加する家族が少なくなり、担当者は会の運営に苦慮している。来所する家族から意見を伺うこともあり、対応をカンファレンスで話し合っている。3ヶ月毎に担当職員が作成した「ご様子伺い」を送付している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回カンファレンスを開き、入居者の介護に関することやホーム内の行事に関する事との意見交換をする場を設けている。	法人全体で主任会議があり、担当者が出席している。毎月のカンファレンスでの職員の意見や現状を報告し、シャワーチェアを購入している。運営者との意見交換も充分にできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態や職員のスキルアップに応じて、給料アップに心がけている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別を理由にすることなく、十分に注意し、募集採用を行っている。	法人の人事課がホーム職員の採用に関わっている。常勤職員が多く、雇用契約書や守秘義務の誓約書を取り交わし、年次有休休暇の取得を推奨している。資格取得にはシフトに配慮し、取得後は費用助成がある。昼休みは交代で事務室でとっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	講演などに参加して、資料の作成し職員が人権意識を高めるように勤めている。	高齢者虐待防止に関するマニュアルを整備し、職員への周知に努めている。参加しているGHみやわか主催で研修を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度病院で行われる研修に参加したり、地域のグループホームで行われている研修に参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月に1回GHみやわかで同業者と交流する機会や勉強会をし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えがある時は、話を聞くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が面会に来られた際は、積極的にコミュニケーションを図るようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の状態を知るために、主治医やケアマネから話を聞き、本人やご家族の要望を聞いている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話の中で昔の話をしたりして、入居者の生活歴を知り、信頼関係を築くようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時や2ヶ月に1回行っている家族会で情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が病院の通所リハに多く参加されているので、時折遊びに行ったりしている。また、施設を開放しているため、いつでも面会できるようにしている。	訪問調査当日、入居者の親族の子どもの訪問があり、気楽に訪問できる環境が伺える。デイケアからの入居やリハビリを受ける入居者もあり、地域の方々とのふれ合いがある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ間が間に入り、コミュニケーションがとれるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで関わりを必要とする例はないが、病院との関わりがある為要望など聞ける体制にある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとり、意向の把握に努め、職員間で情報交換に勤めている。	基本情報やアセスメントシートを整備し、入居者の意向や生活歴を把握している。担当職員が日頃の関わりから、入居者の意向を把握している。	3ヶ月毎に実施されているモニタリングや再アセスメントの折に、取得した入居者の意向や生活歴等の情報を随時書き加えることで、さらなる入居者本意のケアを期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に生活歴を聞いたり、本人とコミュニケーションをとり、その人らしい生活が送れるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日申し送りをし、記録の確認をするようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・御家族の要望を聞き、ケースカンファをすることで、入居者のニーズを見つけ出せるようにしている。	介護計画を見直す3ヶ月毎に把握した入居者の状況を「ご様子伺い」に記載し、家族の意向を伺いながら介護計画を作成している。作成した介護計画は、入居者や家族に説明し、了承を得ている。	入居者の意向をより具体的に計画の課題にすることで、短期目標のモニタリングやさらなる課題の抽出が容易になのではないかと考えられます。より具体的に個別の介護計画を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤した職員全員が記録をし、前日の状況を知るために、記録の確認を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望に応じ、買い物に行ったり、電話をかけたたりしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回程度ボランティアの方に来て頂いている。又、消防署の協力で、年2回の火災訓練を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回主治医が往診に来られ、毎朝ドクターに入居者の状態報告を行っている。	法人医療機関やデイケアから入居に至る利用者が多く、主治医と十分な連携がある。専門医療機関を受診する場合は、家族が主治医の紹介状を持参し、受診に同行している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院と系列しているので、体調変化時にはすぐにナースに連絡するようにしている。毎朝、申し送りしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と系列しているので、何かあれば連絡できる体制ができている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に看取りに関する説明を行い、出来るだけグループホームで介護させていただいている。最終的には主治医の指示に従っている。	看取り介護についての同意書を整備し、入居契約時に説明している。ホームでの看取りを希望されることもあるが、主治医と家族との話し合いで隣接する医療機関に入院する入居者が多く、ホームでの看取りはない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の時には、病院と連携できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災訓練を行っている。スタッフは初期消火・通報の仕方がわかるようにしている。非常食も3日分用意している。	法人全体での避難訓練だけでなく、ホーム独自で避難訓練を日中、夜間と年2回実施している。昨年の大雨の折はデイケアの2階に近隣の同業者が避難している。飲料水やお粥・豚汁のレトルト食品を3日分備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に合わせてトイレ誘導などをする時は、周りに配慮し支援している。	個人情報の保護に関する規程を玄関ホールに掲示し、個人情報使用同意書を契約時に交わしている。職員は守秘義務の誓約書を提出している。職員は入居者の尊厳やプライバシーを配慮した声掛けや対応をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意見をできる限り尊重し、その人のペースで支援していけるように工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のペースに合わせて、生活が送れるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝や起床時等には、声掛けを行い、整容出来るように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛けをしながら、簡単なテーブル拭きや食事の準備など手伝っていただき、一緒にできるようにしている。	入居者の心身の状況に応じて、テーブルを2つに分け、嚥下状態に応じた栄養補助食、トロミ食やミキサー食を準備している。全盲の入居者にはメニューを紹介しながら、自力での食事摂取を支援したり、各自のペースで食事を摂取する入居者も多く、ユニットによっては全量摂取がほとんどである。業者から配食を受けているが、お誕生日のお膳は入居者に好評である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に配慮し、ミキサー食やキザミ食にしたり、飲み込みが悪い方にはトロミをつけたりしている。食事量のチェックを行い記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行っている。介助が必要な方は介助し、仕上げ磨きをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用の方は、定期的にチェックを行っている。一人一人の排泄パターンを把握して、トイレ誘導している。	トイレ付きの居室もあり、排泄の自立を支援しやすい。入居者毎に排泄状況をチェックし、排泄の誘導を自立に活かしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から水分摂取し、必要な方は医師の指示の下で下剤を服用して頂いている。それでも排便がない方は、医師の指示により浣腸を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は1日おきで、入浴時間は決まっている。失禁などで汚れた場合は、時間関係なく入浴している。	大浴槽と個浴槽が設置されているが、現在は2人体制での入浴介助やシャワー浴の入居者が多くなり、個浴槽を使用している。「帰宅して入る」や「夜に入る」等で入浴拒否のある入居者には、浴室への誘導や声かけを工夫しながら対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせて入眠していただいている。夜間1時間おきに巡回を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から薬の説明書をもらい、いつでも見られるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のお手伝いをして頂いたり、歌を唄ったりして、気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の頻度は少ないが、動けない方は天気の良い日に声かけをして、車椅子で散歩に出かけられるように心がけている。	ホーム周囲は法人の敷地で駐車場等であるため、車いすでの散歩がしやすい。年間行事計画でお花見と初詣、福祉まつり等に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多くの方は、管理できずこちらで管理している。一部の入居者は、お小遣い程度持っておられる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話があり、ボタンを押し電話をかける援助を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭には、花などを植えている。又、ホームの外には木を植え、室内が見えないようにプライバシーを守っている。	各ユニット毎の玄関は季節の花等が植えられたプランターが設置されている。靴箱は入居者の記名があり、靴の着脱がしやすいように椅子が設置されている。ガラス張りの中庭を中心に各居室があり、広い廊下には木製に椅子が設置されている。天井が高く明るい共用空間は食卓や椅子が中央に置かれ、仲の良い入居者同士で壁際のソファで寛ぐ入居者もいる。床より1段と高くなった畳敷きの間も設けられている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置き、日向ぼっこなどができ、ゆっくりするスペースを作っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が以前から使っていたダンス等を持ってこられ使用している。	各居室の入口には、表札と目印の花飾りを掛け、引き戸を開けると掃き出し戸にはよしずやブラインドで採光を加減できる。洗面台とベッドは備え付けで入居者に合わせて、トイレ付の部屋や電動ベッドを使用している。愛用の筆筒や鏡台、使い慣れたソファや藤椅子、机やテレビが置かれ、心地よい居室になっている	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るところはご自分でしていただき、残存機能を活用している。		